

## 南ア月報

(2017年1月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

### 【内政】

- ANC創立105周年記念大会の開催
- ドラミニ=ズマAUC委員長の南ア帰国

### 【外交】

- ブラヒム・ガリ・西サハラ「大統領」の南ア訪問

### 【経済】

- 経済成長
- インフレ
- 製造業・鉱業生産高
- 自動車販売台数
- 景況感
- 為替
- 格付け

## 1 内政

### ● ANC創立105周年記念大会の開催

8日、ハウテン州ソウェトのオルランド・スタジアムにおいて与党アフリカ民族会議（ANC）創立105周年記念大会が開催された。ズマ総裁が全国執行委員会（NEC）の声明を発表し、存命であれば本年で100歳を迎えた故オリバー・タンボANC総裁の業績を称え、同総裁が目指した国民民主革命（National Democratic Revolution）の実現に向けて党が一丸となって各課題に取り組んでいくことの重要性を強調した。声明は、教育、経済改革、エネルギー、住宅、外交分野等における過去1年間の成果及び今後の取り組みについて触れた他、2016年に実施された統一地方選挙の結果に関し、国民が選挙という民主的手法によってANCに対して不同意を唱えたことに留意するとともに、南アの民主主義が熟度を増してきていること自体は賞賛されるべきだとした。また、次期ANC総裁の選出に関し、新たな指導者は人民に仕える熱意とコミットメント、党を結束させ、その方向性を指し示す能力を有していなければならない、私腹を肥やすための方途として指導的立場につかんとする者がいるが、ANCを牽引していくことは容易なものではなく、軽視してはならないと述べた。

### ● ドラミニ=ズマAUC委員長の南ア帰国

次期ANC総裁有力候補の一人であるドラミニ=ズマAUC委員長は1月末に同委員長ポストを退任し、エチオピアから南アに帰国した。ANC関係者によれば、ズマ大統領は、南アの国内政治からしばらく離れていたドラミニ=ズマ氏がANC総裁選に向けて地盤を固められるよう、近いうちに内閣改造を行い何かしらの閣僚ポストを与えることを検討し

ているとの報道もみられる。これまでに保健大臣、国際関係・協力大臣、内務大臣を務めた同人の経歴を考えれば、数ある閣僚ポストの中でも、重要なポストに就任すると見られている。

## 2 外交

### ●ブラヒム・ガリ・西サハラ「大統領」の南ア訪問

6日、ブラヒム・ガリ・西サハラ「大統領」が南アを初めて実務訪問し、ズマ大統領ら当国政府要人と会談したところ、要点は以下のとおり。

#### 1 大統領府ステートメント要旨（6日付）

（1）国連が植民地独立付与宣言を採択してから55年以上経過したにもかかわらず、西サハラが依然として植民地化されているのは理解し難い。

（2）南アは、元モザンビーク大統領であるシサノ西サハラ問題AU特使の取り組みを引き続き支持するとともに、モロッコによって続けられている西サハラに対する植民地支配は国連憲章並びに国連の権威と信用に対する挑戦であると信じて疑わない。

#### 2 マシャバネ国際関係・協力大臣の当地紙（4日付）への寄稿要旨

（1）国連が監視する住民投票によってのみ、西サハラの最終的な地位は確定される。そのようにして、西サハラの住民は、民族自決の権利を正当に行使しなければならない。

（2）南アは、モロッコ及びサハラ・アラブ民主共和国の両者に対し、双方に受け入れ可能な政治的解決に達するために、誠実かつ前提条件なしに直接対話を再開することを促す。それによって、西サハラの住民は、民族自決を享受することが可能になる。

（3）我々は、2017年4月に国連安保理においてMINURSO（国際連合西サハラ住民投票ミッション）のマンデート更新が議論される際に人権問題が考慮されると信じている。MINURSOは、西サハラにおける人権侵害を監視し、安保理に報告するマンデートを付与されるべきである。

## 3 経済

### <経済指標>

#### ●経済成長

格付け会社スタンダード&プアーズは、2017年の南ア経済成長見通しを1.4%、2018年を1.8%と発表した。国民一人当たりのGDPは、2018年にはプラスに転じると述べた。

#### ●インフレ

南ア準備銀行は、12月のインフレは6.8%と発表し、政策金利は据え置くと述べた。住宅・光熱費、サービス業の上昇、食料価格の高騰が主な要因である。第4四半期の平均インフレ率は6.6%と市場の予測通り。11月のガソリン、エネルギー、食品を除くコア・インフレは5.9%と前年の5.7%より上昇したが、依然としてターゲットバンドの3-6%以内である。

#### ●製造業・鉱業生産高

エコノミスト達によると、11月の製造業生産高は前年比1.9%増と予想外の増加となったが、成長と業況感の見通しは依然として厳しいと述べた。購買担当者景気指数（PMI）は、工場管理者間での景況感が12月時点で5ヶ月連続で下落したと示した。11月のPMIは48.3、12月は46.7と低下し、景況感の改善と悪化の分岐点となる50を下回り、景気後退を示唆した。ステレンボッシュにあるBureau of Economic Research

のエコノミストによると、農業生産高と商品価格の上昇による鉱業部門の回復が今後の需要を支えると述べた。11月の鉱業生産高は早いペースで下落し、第4四半期経済成長にマイナスに影響する可能性があるとして示された。世界銀行の鉱業統計は、予測されている2016年の経済成長0.4%の低成長から今後2年間で緩やかに回復するとの見通しを発表した。12種の鉱物グループの内9種で生産高が下落した。最大の下落は、鉱業生産高の半分以上を占める、白金、鉄鉱石、金。

#### ●自動車販売台数

12月の新車販売台数は、41,630台と前年比15.3%減。2016年の総売上げ台数は前年比11.4%減となった。一方で、2016年の総輸出数は344,822台と前年比3.3%増と伸びた。Naamsa（南ア自工会）によると、自動車輸出は最終的にはグローバル市場の方向性や需要に左右されるが、世界経済の見通しはポジティブであり、南アの自動車輸出を後押しするだろうと述べた。

#### ●景況感

南ア商工会議所（SACCI）は、12月の景況感は93.8ポイントと「安定」と発表し、また、ベースイヤーの2015年の100、2014年の104.2と比べて、2016年の年平均景況感は93.5であると述べた。

#### <出来事>

##### ●為替

野村証券は、2017年末にかけて1ドル15.50ランドの緩やかなランド安に向かう見通しを発表した。1月6日付の13.64ランドから1年をかけて約12%の下落となる。この予想は、ドルがほとんどの通貨に対して強くなるだろうとの前提に基づくものである。ランドはトルコ・リラよりも強い通貨になるだろうと予想される。

##### ●格付け

格付け会社スタンダード&プアーズは、南ア経済が不況やドルベースで資産を減らすようなことがあれば、ソブリン格付けの格下げの可能性を再度警告した。一方で、南アのエコノミスト達は経済は緩やかに回復するだろうと予測し、6月の格下げの可能性は五分五分であるとの見方を示した。

#### 4 警備

##### ●南ア・テロ情勢について

当地紙（Sunday Times1月15日付他）において、南ア渡航を企図したISILのイラク人テロリスト（爆弾製造担当）の検挙事例が報じられた。

昨年12月末、同国のAtaturk空港においてトルコ当局により検挙され、現在、その身柄はイラク当局において勾留されているところ、同人の供述から、ヨハネスブルグ行きのフライトに搭乗予定であったことが判明しており、同局は南アへの渡航目的について、ISILの戦闘員リクルート活動のためではなく、南ア国内におけるテロ攻撃のターゲットを選定することが目的であったとの見解を示している。

同紙によれば、南ア当局は、当該事案に関し、関係機関を通じて事実関係を確認中であるとして、南アへの渡航目的に係る当該イラク人テロリストの供述内容には言及しなかった。

（了）